

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：32639

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02493

研究課題名（和文）専門職学位 Ed.D.に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Basic Research on Professional Degree Ed.D

研究代表者

笹井 宏益（SASAI, Hiromi）

玉川大学・学術研究所・特任教授

研究者番号：10271701

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：Ed.D.（Doctor of Education）は日本の教育系大学院で専門職として位置づけられ、Ph.D.とは異なり実務に特化した学位である。日本ではEd.D.の養成に限られており、職業的専門性が不十分とされてきたが、2003年の学位規則改正により専門職学位課程が導入された。一方、アメリカでは各分野に特化した職業学位が存在し、Ed.D.プログラムは教育分野でのリーダーシップや政策分析、実地訓練を重視していることが特徴である。

アメリカにおける専門職学位は、特定の職業や専門分野での高度な知識とスキルを証明するための学位であり、実務経験や実地訓練が重視されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究の意義としては、次のとおり、日本においてEd.D.（Doctor of Education）養成が進まない理由と今後の展望が明らかになったことである。

具体的には、文部科学省による学位政策等により、職業的な専門性を重視するEd.D.が整備されてこなかった。その背景には、社会の専門職教育に対する認識の差や大学院教育のアカデミック志向などがある。そのことは、アメリカやイギリスでは職業学位としてのEd.D.が普及しており、実務経験や実地訓練を重視した教育が提供されてきたことからわかる。今後、日本でのEd.D.の普及については、その社会的評価を高めること等が重要となる。

研究成果の概要（英文）：Ed.D. (Doctor of Education) is positioned as a professional degree in Japanese graduate schools of education, and unlike the Ph. In Japan, Ed.D. training has been limited and professional expertise has been considered insufficient, but professional degree programs were introduced with the 2003 revision of degree regulations. On the other hand, in the U.S., professional degrees specializing in various fields exist, and Ed.D. programs are characterized by their emphasis on leadership, policy analysis, and on-the-job training in the field of education.

Professional degrees in the U.S. are designed to demonstrate advanced knowledge and skills in specific occupations or specialized fields, where the emphasis is on work experience and on-the-job training.

研究分野：教育学、教育社会学

キーワード：Ed.D 教育学博士 専門職学位 専門職大学院 プロフェッショナルスクール 教職大学院

## 1. 研究開始当初の背景

近年、学力低下の進行やいじめ、あるいは不登校などの事案が頻発する中で、現行の教育に対する疑念や批判が高まっている。また、英語教育やプログラミング教育など新しく教育課程に導入される教科・科目について、教員の適切な対応が求められるようになってきている。さらに「社会に開かれた教育課程」(令和2年度から本格的に実施される新学習指導要領)のもとで、地域との協働やこれに基づく教育活動をどのように進めていくのか、学校としての取組みが問われるようになってきている。その一方で、一部の学校では、保護者との信頼関係がうまく築けずに挫折する教員も少なくない。

こうした状況のもとで、教員の資質向上や力量形成に対する関心が高まっており、養成プログラムや教育方法を含めて教員養成の在りようを考え直すことが必要になってきている。まさに、現場で教える「教師」の備えるべき資質や能力を明らかにして、それらをきちんと大学教育や大学院教育において身に付けてもらうことが必要になってきているのである。

それを実現するためには、現場の教師をはじめ実際に教育的立場に立っている人の資質向上を図る高度なプロフェッショナル人材が必要である。そうした「先生の先生」には、高度で専門的な資質・能力が必要であり、それを示す学位が Ed.D. である。

## 2. 研究の目的

アメリカやイギリスと比べ、なぜ日本では教育系のプロフェッショナル人材である Ed.D. 養成がほとんど行われてこなかったのか、学位制度の歴史的な展開過程や文部科学省による学位政策の推移に着目して明らかにする。その際、日本とアメリカとの職業的な学位 (professional degree) の意義付けの差異についても考察する。

ここでは、先行研究にかかる論文、学位制度に関する資料及び関係する答申や文部科学省による学位政策・予算措置等を調査して、それらを整理・分析する。

また、Ed.D. はこれからの日本にとって必要になるのかならないのか、アメリカやイギリスにおける Ed.D. 保持者の活動状況やそこでの社会的評価を把握するとともに、日本の状況と比較して、これからの日本社会における Ed.D. の必要性を明らかにする。

## 3. 研究の方法

まず、先行研究にかかる論文、学位制度に関する資料及び関係する答申などを収集し、それらを整理・分析する。

その後、国内の関係する大学院を訪問し、Ed.D. の必要性や妥当性についてヒアリング調査を行う。併せて、海外の大学院で Ed.D. プログラムをもち、多くの修了生を出している大学院等を訪問し、ヒアリング調査を行う。

以上の結果をまとめ、日本での Ed.D. のありようについて考察する。

## 4. 研究成果

### (1) 概要

専門職学位は、特定の職業や専門分野における高度な知識やスキルを証明するための学位であり、そのため、これらのプログラムでは、実務経験や実地訓練が重視され、実践的な専門知識やスキルを身につけることを重視されている。

アメリカでは、学位は、研究学位 (academic degree) と職業学位 (professional degree / 日本でいう専門職学位のこと) とに分けられ、学術的な研究に従事することを目的とするプログラムと、実務に携わることを目的とするプログラムにおいて、その修了者に対してそれぞれの学位が授与されてきた。

職業学位の種類としては、Ed.D. (教師養成分野) の他には、例えば、D.Eng. (技術者養成分野)、MBA 及び DBA (経営者養成分野)、M.D. (医師養成分野) などがある。

アメリカの場合、Ed.D. は「教育リーダーシッププログラム」などの課程を置く大学院で授与される。また、M.Ed. の学位は、主に学生に対するカウンセリングの専門職、初等中等教育にかかる学校長の資質向上プログラム、あるいは教員の資質向上のための研修プログラムでそれぞれ授与される。

Ed.D. 養成のためのプログラムにおいては、学術的な研究指向を持つ Ph.D. プログラムとは異なり、学校経営や教育学などの分野において、広い視野の立場に立った経営とともに、より実践的な方法による知見やスキルの修得が目指されている。

アメリカにおける教育リーダーシッププログラムの標準修業年限は3年であり、1年次の学生は、調査手法の修得、学校経営などの法制的面の知見を身につけることとされている。

## (2) 事例

アメリカでは、職業学位は、それぞれの専門分野にかかる職業と密接に結びついているが、Ed.D.プログラムにかかるいくつかの事例を掲げる。

### ▶ ウォルデン大学の Ed.D. プログラム

ウォルデン大学の Ed.D. プログラムは、教育分野でのリーダーシップや専門知識の獲得、教育政策の分析、教育改革の推進、を目指す教育のプロフェッショナル(専門家)向けに設計されている。主なポイントは次のとおり。

教育分野でのリーダーシップや専門知識の獲得に焦点を当てた教育リーダーシップ、教育政策、教育研究方法論などの基礎的なコース(コアコース)が提供されている。

学生が自分自身の関心やキャリア形成上の目標に応じて選択できる専門分野の科目が用意されている。

学生は実践的な問題に対する解決策を提案するため、独自の研究プロジェクトを実施して、論文を執筆する。

実際の教育現場でのリーダーシップ経験を積むための実地実習を行う。これにより、学生は理論と実践を結びつけ、リーダーシップのスキルを磨くことができる。

### ▶ UCLA の Ed.D. プログラム

UCLA の Ed.D. プログラムは、教育分野でのリーダーシップや専門知識の獲得、教育実践の改善を目指す教育のプロフェッショナル(専門家)向けに設計されている。主なポイントは次のとおり。

教育分野でのリーダーシップ、教育政策、教育評価、カリキュラム開発などの基礎的なコースが提供されることが一般的。

学生が自分自身の関心や専門分野に応じて選択できる専門分野の科目が用意されている。学生は実践的な問題に対する解決策を提案するため、独自の研究プロジェクトを実施して、論文を執筆する。

セミナーやワークショップなど専門家や同僚とのディスカッションや共同作業を通じて、学習と交流の機会を提供する。これにより、学生は他の専門家とのつながりを強化し、学びを深めることができる。

### ▶ ロンドン大学の Ed.D. プログラム

ロンドン大学(University of London)の Ed.D. のプログラムは、教育分野での実践的なリーダーシップと専門知識の習得を目指すもの。具体的なプログラム内容は、プログラム提供部門によって異なりますが、一般的には次のとおり。

教育分野でのリーダーシップ、教育政策、教育評価、教育研究方法論などの基礎的なコースが提供されることが一般的。

学生が自分自身の関心や専門分野に応じて選択できる専門分野の科目が用意されている。学生は実践的な問題に対する解決策を提案するため、独自の研究プロジェクトを実施して、論文や報告書を執筆する。

セミナーやワークショップなど専門家や同僚とのディスカッションや共同作業を通じて、学習と交流の機会を提供する。これにより、学生は他の専門家とのつながりを強化し、学びを深める。

実際の教育現場でのリーダーシップ経験を積むための実地実習やインターンシップを行う。

## (3) Ed.D. 取得者の就職先

Ed.D. を修了した人々の就職先は多岐にわたるが、調査した大学の動向を分析してみると、次のような傾向があることがわかる。

- ▶ 大学や大学院における教員あるいは教育プログラムを管理する職  
教授、准教授、講師など、あるいは教務事務や成人教育プログラムなどを管理する者
- ▶ 教育機関や教育行政機関の管理職  
学校長や副校長、教育委員会の担当者
- ▶ 教育政策に関して企画立案を担当する職  
教育政策の分析や策定を担当する者、教育改革の推進を担う者、教育省など教育行政機関において政策立案などの仕事に従事する者
- ▶ 研究機関や教育に関連する NPO 等において教育・研究業務を担当する職  
研究員、コンサルタント、プロジェクトマネージャーの担当者、教育に関わる NGO や NPO のプログラムディレクター、教育に関わるプロジェクトリーダー
- ▶ 企業や業界団体における人材育成担当者  
企業のトレーニング部門や人材開発部門を担当する者、教育コンサルタント
- ▶ その他

上記は一部の例であり、Ed.D. 修了生の就職先はかなり多様である。その多くは、教育分野でのリーダーや専門知識を活かす立場にある者として活躍している。

こうして見てみると,Ed.D.取得者は,社会の各分野において「教育の営みを必要している場面」で活躍しており,教育機関における教育プログラムの作成や評価,学校での教育指導に関する助言や教員研修の企画などの活動に限られているわけではない。

言い換えると,日本において,Ed.D.プログラムが普及しない最大の理由として,上記に掲げたような Ed.D.取得者の活動する場面が著しく少ないことが挙げられよう。単なる「先生の先生」として Ed.D.取得者を位置付けるだけでは,Ed.D.を意義づけることはできないのである。そこでは,教育におけるリーダーが必要な場面を,学校や行政機関だけに絞らない,民間の営利・非営利団体の活動にも広げる。子ども・若者への教育だけに絞らない,成人の教育・学習にも広げる,というような形で,活動の場面を広げていくことが求められよう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------